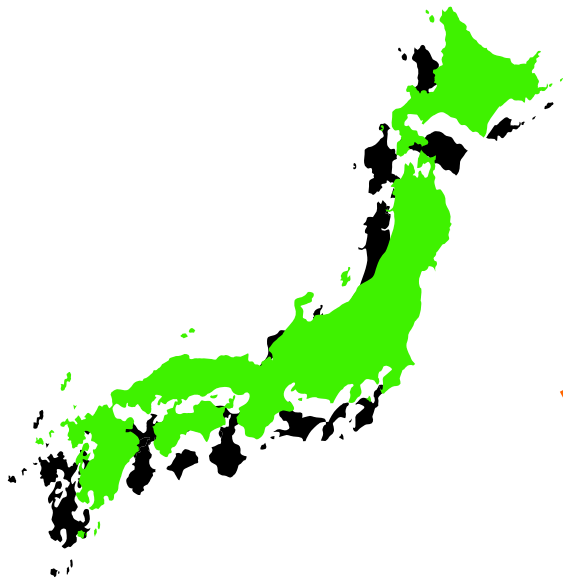


高校生交流（留学等）の推進について

初等中等教育局国際教育課

高校生交流の意義

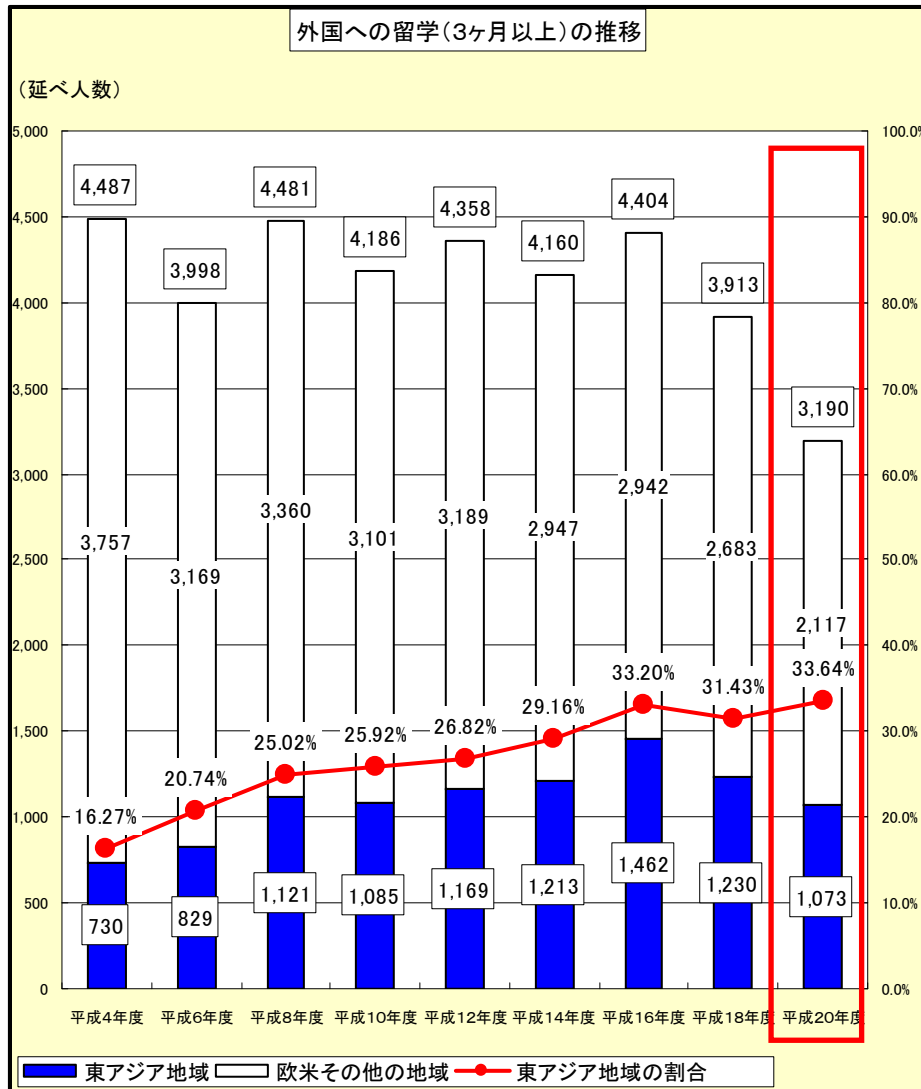
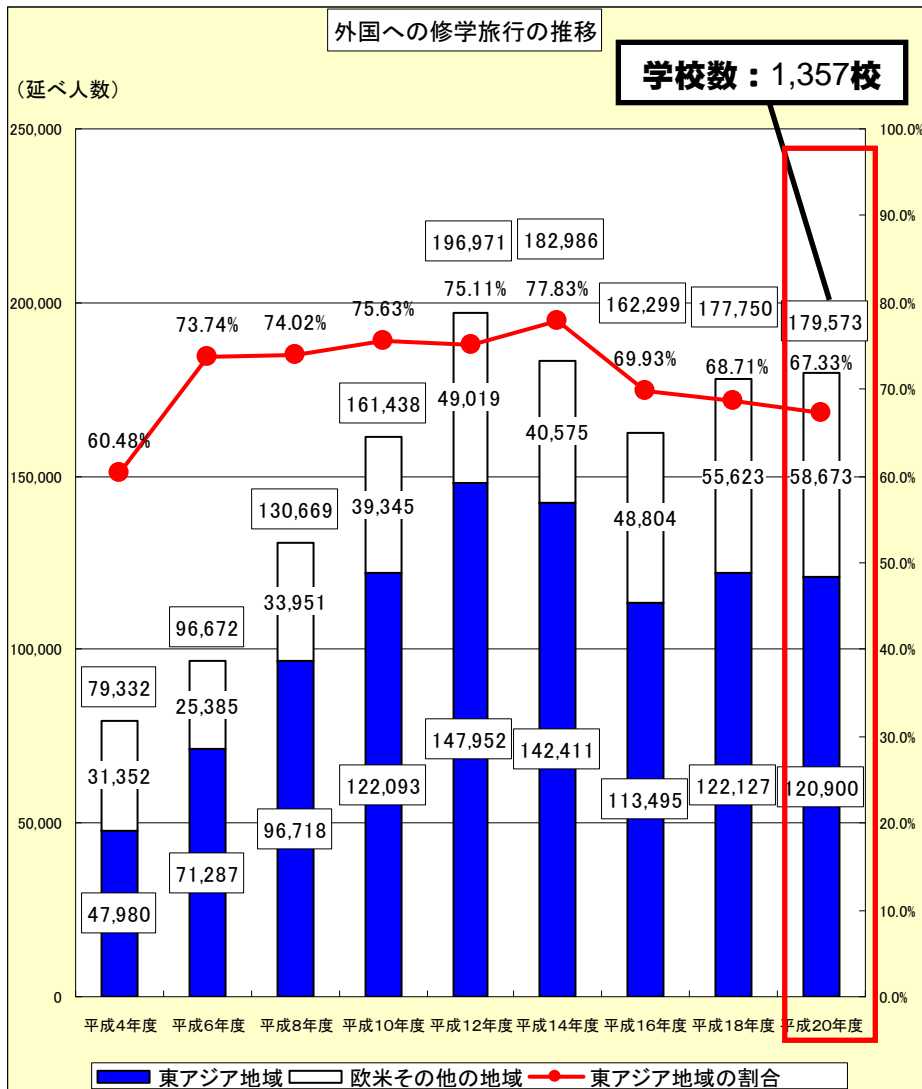
- ◆ 異文化理解に極めて大きな意義を有する。
- ◆ 諸外国との友好親善の増進に寄与する。
- ◆ 大学レベルでの留学やその後の国際交流活動の拡大につながる。



高校生交流の現状①

○ 海外への修学旅行は、多くの高校生が参加しているが、留学（3ヶ月以上）となると、その規模は小さい。

(1) 海外への留学等

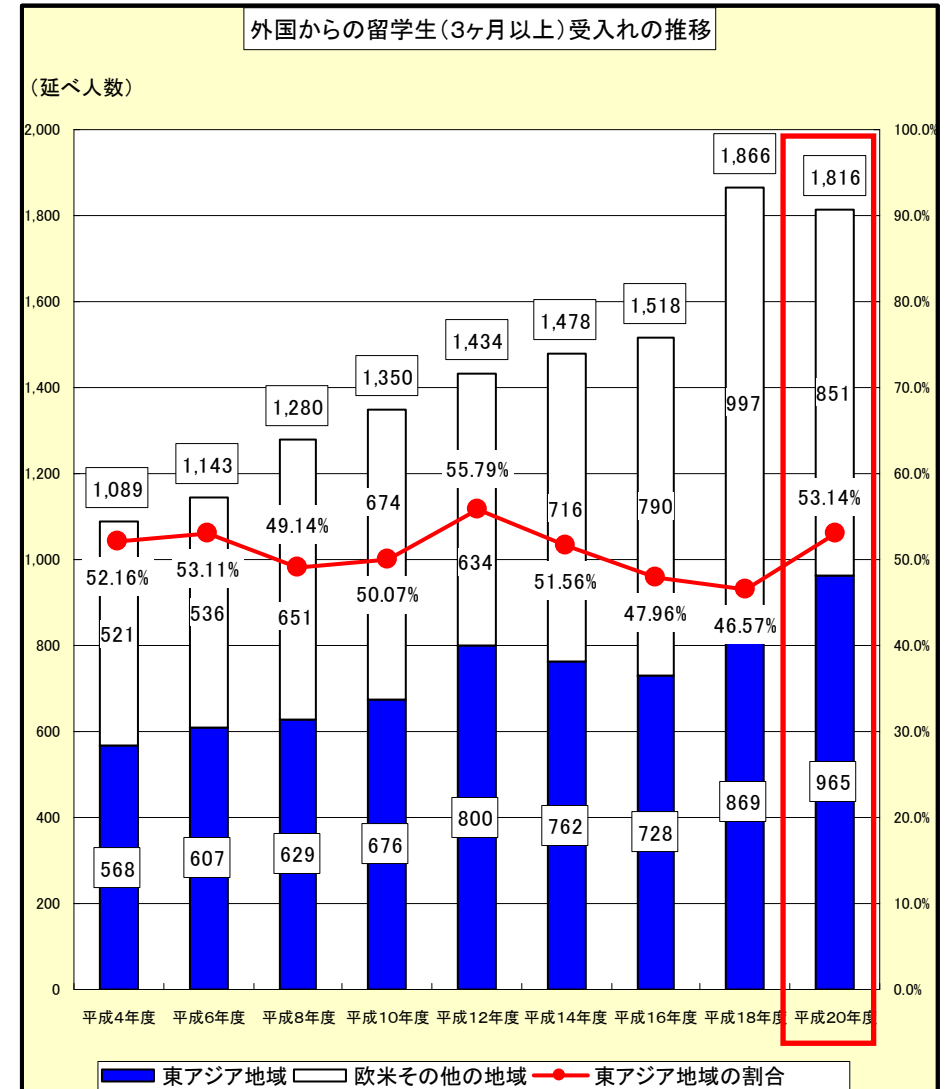
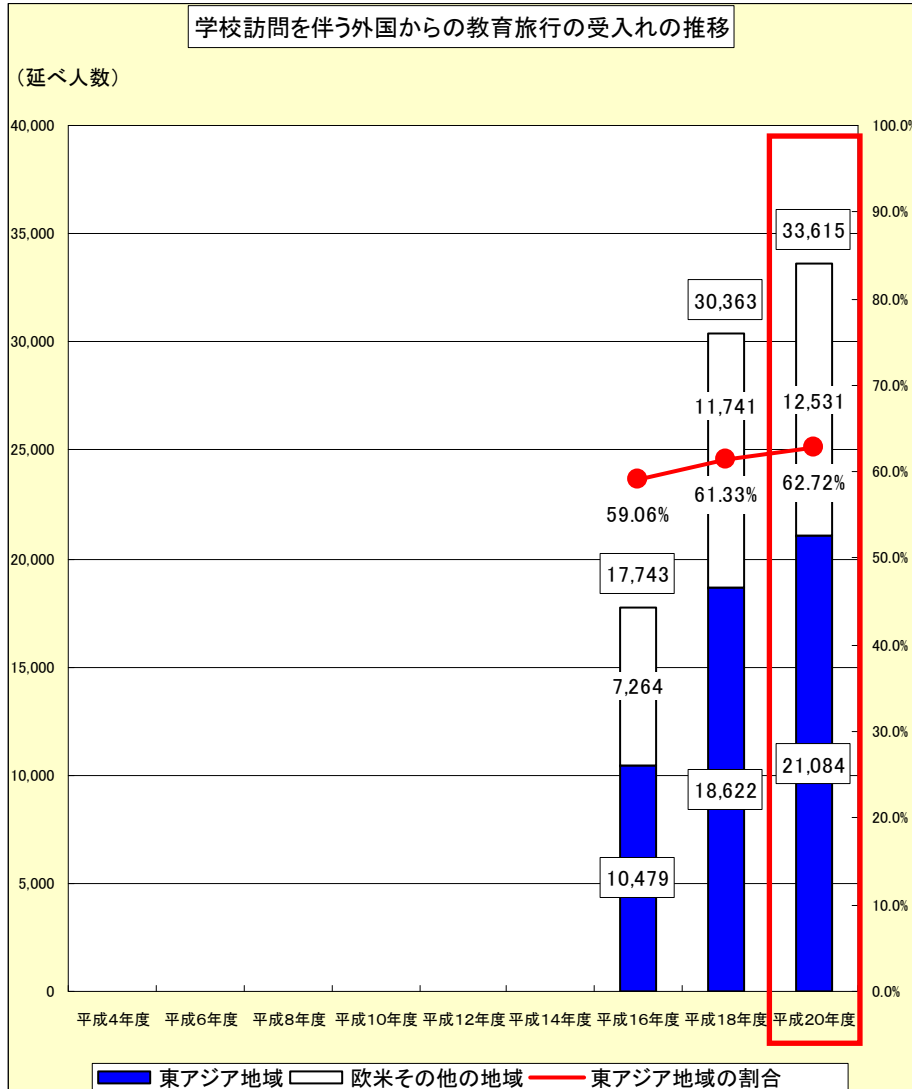


(注) 「東アジア地域」：ASEAN(インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス) 及び 中国、韓国、インド、オーストラリア、ニュージーランド

高校生交流の現状②

○ 外国人留学生等の規模は、日本人の海外留学等の規模より圧倒的に小さい。

(2) 海外からの留学等



(注) 「東アジア地域」：ASEAN(インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス) 及び 中国、韓国、インド、オーストラリア、ニュージーランド

高校生交流の関連施策

- 交換留学プログラムに参加する生徒の留学経費の一部を支援する「高校生の留学促進」を中心に、以下の留学関連施策を実施。

留学（派遣）

- **高校生の留学促進**

（H22年度予算額：29,258千円 派遣:54人）

高校生の派遣プログラム（原則1年間）に参加する生徒のうち、学資補填を必要とする家庭の子女で成績優秀である者を対象に、1人50万円を支援する。

- **オーストラリア科学奨学生の派遣**

（隔年実施のためH21年度予算額：1,464千円 派遣:8人）

シドニー大学内物理学財団が主催する「高校生のための国際科学学校」事業への参加に要する経費を支給する。

参加高校生は、ノーベル賞クラスの一線級の科学者から最新の科学知識に関する講義を受け、他国からの参加高校生との交流を深める。

受入れ

- **外国人高校生（日本語専攻）の短期招致**

（H22年度予算額：27,411千円 受入れ:100人）

日本語を専攻している高校生を6週間程度日本に招聘する。外国人高校生は、一般家庭にホームステイしながら日本の高等学校に体験入学し、語学学習や交流活動、ボランティア活動を実施。

- **国際視覚障害者援護協会補助（盲学校入学前予備教育支援補助）**

（H22年度予算額：5,295千円 受入れ:2人）

視覚障害を持つ外国人学生に対し、盲学校入学前の6ヶ月間、日本語や日本語点字、生活習慣、歩行訓練など日本での生活に必要な基本的知識・技術を身に付けさせる予備教育を行う社会福祉法人国際視覚障害者援護協会の事業を支援する。

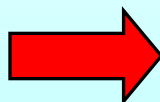
高校生交流の今後について①

(1) 制度改革

○ 高等学校における外国留学時認定可能単位数の拡大

学校教育法施行規則第93条第2項の改正を行い、平成22年4月から、校長が、外国の高等学校における履修を国内の高等学校における履修とみなし、単位の当該習得を認定することができる単位数の上限を拡大。

30単位



36単位

メリット

◆ 高等学校の卒業要件として規定されている最低修得単位数 . . . 74単位

◆ しかしながら、3年間の課程で**90単位**以上の単位の修得を求める学校もある。

※ 全日制の普通科で58%、専門学科で47.6%、総合学科で41.2%

(平成19年度公立高等学校における教育課程の編成・実施状況調査より)

このため、1年間当たりの必要修得単位数が30単位を超える場合もあり、その場合、帰国後に卒業に必要な単位を別途修得する負担が生じる。

◆ 今回の措置により、これらの負担を生じさせないことが可能となる。

高校生交流の今後について②

(2) 留学支援事業等の拡充

① 平成23年度予算の概算要求以降、例えば、段階的に(50名程度ずつ)支援対象者数を増やすなどして、高校生の海外留学の促進等を検討することが考えられる。

② 高校生段階における留学等の意義や効果について、(財)ワイ・エフ・ユー日本国際交流財団(YFU)や(財)エイ・エフ・エス日本協会(AFS)等の各交流団体と協力して、全国的な啓発活動を積極的に行うなどして、高校生の海外留学の促進等を図っていくことが考えられる。

高校生段階における生徒数と留学生数の推移

